景況実感調査(５月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

① 前月に比べてじりじりと価格が下がった。在庫も多く売り急ぎが出ているように感じる。物件の動きが出て来るとはいえ、どこまで我慢できるか。周囲の動向が気になるところ。
② 先月同様、冷延、酸洗材ともに一服感がある。
③ ゴールデンウィークをはさみ、業況に変化はなく、メーカーの好業績とは反比例して国内店売りは厳しさが続いている。国内の機械受注を始め設備投資、建設投資の統計は良い数字が発表されているが、それが足元の売上や出荷数量には結びついて来ていない。年初の期待感、高揚感が嘘のようだ。得意先も、夏場以降の受注増を見越してはいるが、値上げへの反応は厳しく、利益率は下押ししており楽観視はできない。ＳＵＳ材はとくに採算が苦しく、ニッケル系は急激な値上げについていけない感がある。実需の細っている中でも値上げを急ぐしかない。鉄鉱石、石炭の値下げも気がかりだ。

中板

① 需要低迷、在庫増。夏場に期待していた建築需要も盆明け以降にずれ込み、踏ん張りきれずに安値も聞こえる。当面、厳しい状況が続きそう。

厚板

① 建築全般は６～７月まで、それほど動きがない見込みであり、全体として一時的に停滞感はあるものの、来年２月以降の建方時期に合わせて、また夏以降に活況になっていくと思われる。各高炉は６月に定修及び工事を予定しており、供給量が落ちることから、需給面から見ると引き続きタイト感は変わらない。

一般形鋼

① 売上高は３月の消費税値上げ直前の駆け込みに比べれば減少しているが、４月、５月と思ったより落ち込みが少なかった。６月以降の荷動きの回復に期待を持たせるトレンドである。

Ｈ形鋼

① 荷動きが好転しつつあるが若干の鈍さを感じる。先月同様、我慢の時である。相場を崩すことなく、底上げに努める。
② 予想以上の需要の少なさで在庫が増加している。したがって、市況も弱含みになっている。人手等の問題もあり、需要が急激に増加するとは思えず、我慢が続く。

異形棒鋼

① ５月に入り荷動きは一段と悪化。流通として採算確保のため、市況維持に努めてきたが、新聞市況欄の反落を受け苦戦。本年も厳しい展開となってきた。

平鋼

① ５月の荷動きは４月に引き続き低位横這い。ＧＷ前後の駆け込み需要もない。秋口には建築需要も回復してくると思われるので、今は我慢か。小平は１社減った状態のままで供給力も大幅に落ち、市中の在庫は逼迫している。６月より王鉄圧延が出荷を始めるため、今後は落ち着いてくるだろう。

鋼管

① 荷動きは低調であるが、市況は維持されている。

構造用鋼

① 需要動向については、自動車関連部品や産業機械関連は比較的堅調な動きとなっている。建設機械関連は、中・小型機種については堅調な動きが続いているが、大型機種は回復が依然として遅れている。店売りの荷動きは変化なく、横這いで推移している。市況については、メーカーの値上げ実施に伴い再販価格への転稼を目指して唱え上げを実施している。

② 鉄鋼メーカーからの値上げが実施されているが、市況としてタイト感がなく荷動きも良くないことから、販売価格への転稼がどの程度進んでいくのか、他社の動向も気になるところ。

その他

＜曲げ加工＞

① ５月は連休のため例年売上減少となっているが、今年はいつになく先月比、前年比でも１０％以上の伸び率であった。要因は、予期せぬ大口物件が２、３件増えたことにある。しかしながら、まだ本来の忙しさではない。曲げ加工全体から見て、万遍なく浸透していない。消費税が上がったが、加工面ではあまり影響はなかった。

＜スクラップ＞

① スクラップは需給バランスが見合っているためか、価格は安定し、様子見状態が続いている。

② 産業の空洞化で大変である。それにもかかわらず、大型運転手が来ないので大変だ。若い人が働かない。

＜金属表面処理加工＞

① ５月は紐付き、物件物とも計画通り。スポットは前月より引合いが活発であったことから１５％増の処理量となる。タンク向け補修用鋼板、橋梁用形鋼等の引合いが多く見られることから今後も期待。６月も紐付き大手ユーザーが順調なことと、大型物件も継続しており高操業で推移しそうである。